

中国肢体障害者リハビリテーション
研究センタープロジェクト
巡回指導調査団報告書

平成2年12月

国際協力事業団
医療協力部

医 協
J R
90-58

中国肢体障害者リハビリテーション
研究センタープロジェクト
巡回指導調査団報告書

JICA LIBRARY



1090883(8)

22418

平成2年12月

国際協力事業団
医療協力部

国際協力事業団

22418

序 文

昭和61年11月25日から5ヶ年間の計画で開始された本プロジェクトも4年が経過し、リハビリテーション医学、作業療法、理学療法に係る研修会開催、研修員の受入、機材の供与により中国肢体障害者リハビリテーション研究センターの要員養成のための協力が行われている。

かかる背景をふまえ国際協力事業団は、本プロジェクトの進捗状況と問題点の把握、及びプロジェクト関係者に対する適切な助言を行うべく、平成2年11月、国立身体障害者リハビリテーションセンター津山直一総長を団長とする巡回指導調査団を派遣した。

本報告書は同調査団の調査結果を取りまとめたものである。ここに調査団員各位、並びに調査団派遣にご尽力いただいた関係者各位に深甚なる謝意を表する次第である。

平成2年12月

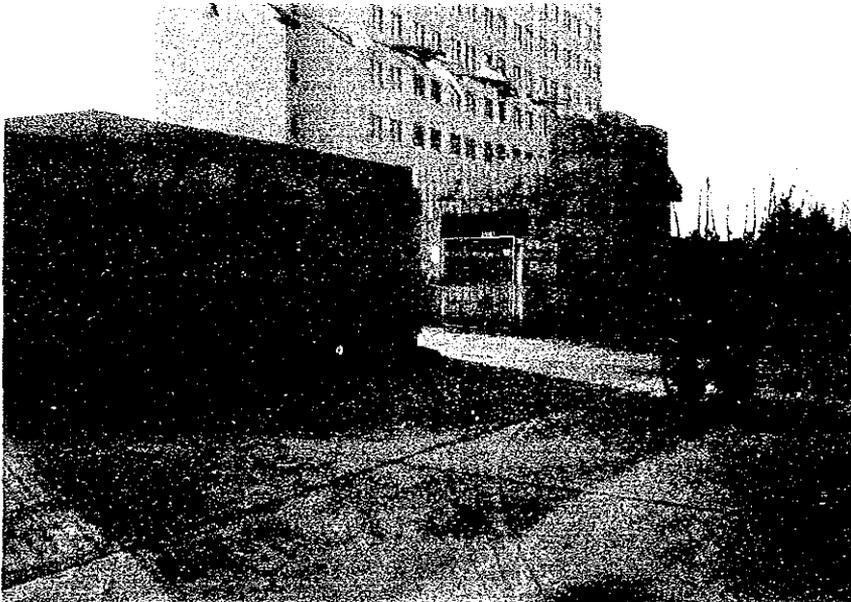
国際協力事業団

医療協力部長

曾我 絃 一



中国側関係者と協議を行う調査団
(11月23日、リハビリテーション研究センターにて)



リハビリテーション研究センター正面入口



專 門 家 講 義 風 景



會 議 議 事 錄 署 名 、 交 換

目 次

1. 巡回指導調査団派遣について	1
1-1. 派遣の経緯と目的	1
1-2. 団員構成	1
1-3. 調査団日程	1
1-4. 主要面接者	2
2. 調査結果要約	4
3. プロジェクトの進捗状況について	5
4. 技術協力計画について	7
5. 調査団所見	8
6. 会議議事録	8
別添資料	17

1. 巡回指導調査団派遣について

1-1. 調査団派遣の経緯と目的

昭和61年11月25日、討議議事録（R I D）署名により、協力が開始された本プロジェクトも4年の歳月が経過した。平成2年11月までの実績として長期専門家5名、短期専門家のべ107名が派遣され、25名の研修員を受入れ、さらに約1億6千万円の機材供与を実施した。その間に医師、O. T.、P. T.に係る各研修会が実施され、平成2年10月からは脳性麻痺、片麻痺、脊損、切断に係るグループ指導が実施中である。

かかる背景をふまえ巡回指導調査団は、

- 1) グループ指導の進捗状況と問題点の把握
- 2) 専門家派遣計画に係る協議
- 3) 研修員選考に係る面接
- 4) 機材供与計画に係る協議
- 5) プロジェクトの評価に関する打合せ

を行うべく平成2年11月21日から同月28日まで北京を訪問したものである。

1-2. 団員構成

団長 津山直一 国立身体障害者リハビリテーションセンター総長
(総括)

団員 橋口哲男 国立身体障害者リハビリテーションセンター管理部長
(病院管理)

団員 緒方甫 産業医科大学教授
(リハビリテーション医学)

団員 植村英晴 厚生省社会局更生課身体障害者福祉専門官
(協力計画)

団員 東城康裕 国際協力事業団医療協力部医療協力課職員
(業務調整)

1-3. 調査日程

月日	曜	時間	調査内容
11月21日	水	20:20	UA829便にて北京着 (津山団長、橋口、緒方、植村団員)
22日	木	9:30	JICA中国事務所にて日程打合せ
		11:00	日本大使館表敬

	13:30	リハビリテーション研究センター表敬、視察 派遣中専門家との打合せ
23日 金	9:00	中国側関係者との協議 (研究センター、及びプロジェクトの活動について)
	13:50	JAL781便にて東城団員北京着
	15:30	91年度研修員の面接、選考
24日 土	9:00	中国側関係者との協議 (専門家派遣、機材供与について)
25日 日		資料整理
26日 月	9:00	中国側関係者との協議 (プロジェクトの評価方法等について)
	13:30	会議議事録について打合せ
27日 火	9:00	会議議事録を検討、作成
	18:00	会議議事録署名
28日 水	9:30	JICA中国事務所に帰国報告
	15:10	JAL782便にて北京発

1-4. 主要面談者

〔中国側関係者〕

呉金章	研究センター主任
那肇詡	研究センター副主任
臺立新	〃
国楽平	〃
張繁業	〃
于肇英	〃
呉弦光	〃

〔日本側関係者〕

(日本大使館)

小島高明	参事官
岡田敏浩	二等書記官

(JICA中国事務所)

三浦敏一	所長
浅地和博	所員

(プロジェクト関係者)

<長期専門家>

奥 座 奇世子 (理学療法)

宮 田 美恵子 (作業療法)

藤 井 晃 (業務調査)

<短期専門家>

草 野 修 輔 (片麻痺指導)

陶 山 哲 夫 (脊損指導)

藤 原 康 治 (作業療法)

末 田 久美子 (理学療法)

水 上 昌 文 (")

沓 澤 恭 子 (看護)

金 城 利 雄 (")

白 坂 康 俊 (言語療法)

2. 調査結果要約

中国肢体障害者リハビリテーション研究センタープロジェクト巡回指導調査団は1990年11月21日から28日まで、国立身体障害者リハビリテーションセンター津山直一総長を団長として、橋口、緒方、植村、東城の各団員とともに中国を訪問し、リハビリテーション研究センターの現状を視察し、呉金章主任、蔓立新副主任、那肇誦病院長等リハビリテーション研究センターの首脳部と会談し、センター各部門を視察し運営状況等につき検討を行った。

調査団が派遣された時期は、建設機械、医療機器の無償供与、技術援助開始後4年が経過し、ハードウェア設計、建設はすでに終了し、病院が稼動し始めてから約1年半、天安門事件以後技術援助再開後10ヶ月を経過した時点である。

総体的に2年前の開所時に比べると、O.T.、P.T.の研修会等を通じて移転された技術が定着しつつあると思われた。入院患者のベッドの稼動率は100%を越え、214床に230名の患者が入院していた。しかし、外来患者数は少なく1日150名前後であった。中国の社会情勢（リハビリテーションに対する認識程度が低い、医療費は各单位ごとの支払い、市内病院との連携に基づく入院が少ない等）や立地条件などからすれば、まずまずの数と考えられるが、経営状況は必ずしも良いとは言えないと考えられた。

り、医、P.T.、O.T.はそれぞれ任務を理解遂行しているようであるが、その对患者当たりの人数には3職種とも過剰員数の感があり言語療法、義肢装具等、福祉関連機器関係工学部門の充実が必要と考えられた。

調査団は医師研修会を含んだ専門家派遣計画について協議を行い、91年度赴日研修候補者と面接を行うなど、協力の内容に関し取りまとめを行った。また特に協力終了が91年11月に迫っていることから、本プロジェクトの評価の内容や方法についても打合せを行った。

協力の最終年度を迎えるにあたり、今後の本プロジェクトや協力のあり方を考える上で極めて重要な時期にさしかかりつつあることを認識した次第である。

3. プロジェクトの進捗状況について

日本人長期専門家とチーム指導のための短期専門家の派遣指導状況を含め、運営面におけるセンターの状況を調査したので、その報告をする。

3-1 運営状況

(1) 運営方針については呉金章主任から説明を受けた。

- ① センターは、日本から援助を受けて発展したが今後、中国全土にその技術を拡大させる計画であり、そのために中国の国情に即したリハビリテーションを根づかせる必要がある。
- ② 教育、職業リハビリテーションは特に強力に進めたい仕事であり、ソーシャルワークの仕事も必要性を認識している。また、医学的リハビリテーションにはもっと力を入れて行きたいと考えている。
- ③ 上記のことを達成するために、日本の援助を期待している。

(2) 財政状況

- ① 医療費は日本、欧米では個人費用負担の面で保障があるが、中国では国家の保障に限度がある。
- ② 現在、1年間のセンター運営費は1600万元であり、政府がこの内550万元を補助し、残額を外来、入院収入で運営している。このため病床数を増加させなければ運営が困難な状況にある。

(3) 増床計画

- ① 当面、現在の214床のベットを300床に増床（4人部屋を6人部屋として使用）する計画であり、200床はリハビリテーションに100床は急性期に使用する予定である。
- ② 将来は、別途300床の病床を増設する予定である。
- ③ 患者のニーズは多いので増床すれば満床になると考えている。

3-2 各種専門職の状況等について

(1) リハビリテーション診療方式について

リハビリテーション医療がチーム医療であることの認識が不足している状況であるが、P.T.、O.T.、S.T.を含めた専門家派遣による指導で、かなり改善され教育効果は上がっていると思われる。

(2) 医師について

- ① リハビリテーション医師の位置付けが不明確であり、オーダーの出し方等の体制の不備があるものの、専門家派遣による指導で教育効果は上がっているものと思われる。
- ② しかしながらこれら医師の中には、治療行為を中心に考え、リハビリテーションは誰かが行うと考えている者がみられ、問題がある。
- ③ センターにリハビリテーションが定着するかどうかは、医師のリハビリテーションに対する認識に掛かっていると言っても過言ではないので、更に中堅の医師に対するリハビリテーションの教育の必要性がある。

(3) P.T.、O.T.について

- ① 教育養成にもっとも時間と手間をかけた部門であるが、技術的には未熟であるものの、中国最初のP.T.、O.T.、としては相当の水準にあると思われる。
- ② リハビリテーションの流れの中での役割の理解、実行力が不足しているため、今後多くの臨床経験により、問題抽出、解決、臨床評価、目標設定という専門職としての活動ができるよう、今後の指導とフォローが必要であると考えます。
- ③ 診療態度、研修態度は中国独特のものがああり、1人当たりの取扱患者数は2～3名と少ない。
- ④ 現在P.T. 27名O.T. 17名が各障害別に分担して患者の診療を行っており、これを各1名の長期専門家が指導を行っているが、このような指導方法では困難性がある。

(4) 看護婦について

- ① 日本への研修留学、専門家の派遣指導を含め多くの時間をかけている部門であるが、看護婦215名の殆どが1～5年の経験しかなく、リハビリテーション看護に対する認識が不足している。
- ② 業務分掌、看護手順は明文化されているが、看護の記録が殆どない。
- ③ 医療技術に対する看護は比較的なされているが、ケアの実践が少ない。
- ④ 専門家派遣により看護課程に沿ったリハビリテーション看護を行い、チームアプローチの方法を体験できたと考えるが、これを定着させるため今後の指導とフォローが必要である。
- ⑤ 日本では人手不足で実行不可能な、24時間体制の間欠導尿チームが形成されていること、注射、導尿など婦長の指導も厳しく行われていることは、大変良いことである。

(5) S.T.について

- ① 殆どが未開発分野であり、専門家派遣により活動が開始された部門である。
- ② 言語障害に関する講義と脳性麻痺、片麻痺チーム指導を行い効果を上げている。
- ③ 派遣専門家は中国語にあった技術を開発しつつ指導しており、今後その指導及び評価を行う必要がある。

3-3 日本人専門家の受け入れについて

チーム指導等、日本人専門家派遣指導を行う上で多くの通訳を必要とするが、十分に通訳できる員数が不足しており、指導の円滑性に欠けている。

3-4 援助機材の活用性について

- ① 日本からの援助機材については、おおむね有効に活用されていると思われるが、故障や使用方法が不明等により使用されていないものもあり、部品の調達や修理技術者の派遣も検討すべきかと思われた。
- ② 水治療法機材は水質不良のためか、活用されておらず、この件については、日本に水を持ち帰り、水質検査を行うこととなった。

4. 技術協力計画について

4-1. 専門家派遣

平成3年度の専門家派遣計画に関し、主に第2回医師研修会の内容を取りまとめるべく協議を行った。

研修会の方法は講義を含む臨床実習とし、リハビリ医学の理論と関連のある臨床実習が適切にできることを到達目標としたが、特に参加人数についてなるべく多くの医師が集まるよう中国側に要望した。また研修会の期間や専門家の人数については明確には定めなかったが、91年の4月頃から4か月程度が適切かと思われた。また中国側からも派遣専門家が行う講義に参加する他、研修会の組織管理面で責任を負い、専門家教授時の調整をするとの説明が行われた。

なお本プロジェクトの協力は医師研修会のみならず実務指導も並行して行われることから、来年も派遣が継続または予定されている理学療法、作業療法、言語療法、義肢装具等の専門家について、その指導が順調に行われるようにすることを確認した。

4-2. 研修員受入

調査団は赴日候補者7名に対し面接を行った。派遣中専門家によりあらかじめ語学力やリハビリ用語の理解力の試験が行われており、それらの資料を参考にしつつ、かつ調査団側が用意した質問に対する回答内容や研修に対する心構え、目的意識などを把握し、総合的に判断採点を行い中国側へ提出した。

中国側も日本側の採点、判断の結果及び内容に同意し、上位5人を研修員として認めることを回答した。

人選は医師3名（男性2人、女性1人）、理学療法士（男性）、作業療法士（男性）各1名となり、受入の時期及び期間は91年4月から1年間で適切と思われた。

4-3. 機材供与

供与機材については90年度の内容及び送付時期を報告するとともに91年度の内容についても可能な範囲で意見を交した。

中国側からはリハビリ医療機器、及び水質改善と電気を供給するシステムについて充実されるよう要望が出された。これに対し日本側はまずリハビリ医療機器に関しては予算範囲内で対応可能であること、また建物や施設との関連があるものについては対応方法をよく調査してから回答したいと説明した。

協議の結果、91年度の供与機材については中国側がなるべく早期にリストをまとめ提出するとのことで意見をまとめた。

4-4. プロジェクトの評価について

調査団が派遣された時期は協力開始から4年が経過した時点でもあり、本プロジェクトも5か年の協力の最終年度を迎えることとなった。従って来年度は評価調査団が派遣され、協力効果を測定することとなるため、その内容と方法について打合せを行った。内容としてRIDに記載された各協力専門分野について、また帰国研修員の活動状況や供与機材の稼動状況についても評価を行うこととし、調査団派遣前に日中双方が関係資料を準備しておくことで意見をまとめた。

5. 調査団所見

調査団訪中時には長期専門家が3名（理学療法、作業療法、業務調整）、短期専門家が7名（理学療法2名、看護2名、リハビリ医師、作業療法、言語療法各1名）が派遣されており、リハビリ医師を中心にグループ指導が円滑に実施されていた。すでに脳性麻痺の指導が終了し、片麻痺指導が終盤にさしかかっていた。

研修会を修了したO.T.、P.T.や帰国研修員のセンターでの活動状況を見ると、4年間にわたり実施してきた技術協力が随所に開花ししつつあると感じられた。しかしその一方、課題として考えられるものもあった。例えば専門家の通訳や調整員の業務を補佐するローカルスタッフの不足が問題となっており、これについては必要な人員をさらに充実されるよう中国側に要望を行った。また日本側の課題としては派遣専門家の取りまとめを行うチームリーダーの派遣が必要と考えられた。今回のグループ指導時はリハビリ医師が中心となり、取りまとめを行ったがこの点は今後長期派遣が困難であれば年間計画の中の重要な時期だけでも短期派遣で対応することが必要と考えられた。

また今後もっとも真剣に考慮すべき点は91年11月の協力終了後の対応についてであろう。今迄の技術協力の効果を正確に測定すること、さらに何らかの形で協力を継続するならば、協力の体制、方針を整理すること等、最終年度へ向けて準備すべき点は多く、重要な時期を迎えつつあることを強く感じる次第である。

6. 会議議事録

1990年11月27日、巡回指導調査団津山直一団長と研究センター呉金章主任との間で署名、交換された会議議事録（日本文・中文）は次のとおりである。

中国肢体障害者リハビリテーション研究センター
プロジェクト技術協力に係る会議議事録

国際協力事業団は、国立身体障害者リハビリテーションセンターの津山直一総長を団長とする中国肢体障害者リハビリテーション研究センタープロジェクト巡回指導調査団を、1990年11月21日から11月28日までの期間、中華人民共和国に派遣した。

中華人民共和国滞在期間中、調査団は本プロジェクトの有効な実施のため、業務の進捗状況及び具体的な協力内容に関して、呉金章主任をはじめとする中国関係者と意見を交換し、一連の討議を行った。その要旨は次のとおりである。

1. プロジェクト実施計画について

(1) 専門家派遣

- ① 日中双方は、1991年の専門家派遣計画の一環として、次の医師研修会を開催することで合意した。

研修会名： 第2回医師研修会

場 所： 中国肢体障害者リハビリテーション研究センター

対 象： 当該研究センターの医師及び全国の病院でリハビリテーションに従事する医師30～40名程度とする。

方 法： 講義を含む臨床実習とする。

到達目標： リハビリテーション医学の理論と関連のある臨床実習。

- ② 日中双方は、研修会の成果をより効果的に発展させるため、理学療法、作業療法、言語療法、義肢装具などの日本派遣専門家が順調に実地指導を行なえるように協力することを確認する。

(2) 研修員受け入れ

日中双方の関係者は、1991年度の研修員候補者と面談し、専門知識・語学能力を総合的に判断した上で、次の者を1年間、日本に受け入れることに合意した。

氏名	性別	年齢	職 位
洪 毅	男	31	中国リハビリ研究センター整形外科 医師
王安慶	男	31	中国リハビリ研究センター整形外科 医師
宮殿蘭	女	26	中国リハビリ研究センター外事処 医師
戴 東	男	25	中国リハビリ研究センターリハビリ部 OT
劉健宇	男	25	中国リハビリ研究センターリハビリ部 PT

尚、手続きは正式要請書の到着に伴い開始することとする。

(3) 機材供与

日中双方は、1991年度の供与機材について、中国側が要望をなるべく早期に整理し提出することで意見の一致をみた。

2. 本プロジェクトの評価内容及び方法について

日中双方は、来年度、本プロジェクトの評価調査団が派遣されるにあたり、合同評価を行うべく、同調査団の派遣時まで準備すべき内容について協議した。

具体的な評価内容・方法は以下のとおり。

(1) 評価内容

以下の内容に係る技術協力効果について評価を行うこととする。

- I、専門分野 ①リハビリテーション医学 ②理学療法 ③作業療法 ④言語療法
 ⑤リハビリテーション看護 ⑥義肢装具・福祉関連機器製作
 ⑦リハビリテーション工学 ⑧臨床・放射線検査
 ⑨リハビリテーション研究センターの管理・運営 ⑩その他

II、研修員

III、供与機材

(2) 評価方法

評価調査団は、研究センター及び附属病院を視察するとともに、センターの運営状況、医療要員養成状況、帰国研修員の活動状況を調査し、既供与機材の稼働状況についても調査を行うこととする。日中双方は、調査団派遣時まで上記(1)の各内容について技術協力効果に関わる報告書をまとめ、合同会議において効果の評価を行うこととする。尚、次の

とおりの資料を中国側が日本側に提出することを日中双方で確認する。

- ① ローカルコスト（運営管理経費）の実績に関する資料
- ② 派遣専門家に対応するカウンターパートの配置及び帰国研修員の活動状況に関する資料
- ③ 既供与機材の使用、管理状況（設置・稼働状況等）の資料

3. その他

- (1) 日本側は、派遣専門家及び調整員が円滑に業務を遂行する観点から、専門家の通訳及び調整員の業務を補佐すべく必要なローカルスタッフの配置等についてさらに充実されるよう中国側に要望した。
- (2) 日本側は、既供与機材の設置、保守、管理等の徹底を計られることを中国側に要望した。尚、討議期間中に日中双方は、研究センターの水質問題と給電問題について討議した。
- (3) 中国側は、本研究センターの円滑な運営のため引き続き支援を継続することを要望した。

1990年11月27日

於： 北 京

津山直一

津 山 直 一

中国肢体障害者リハビリテーション
研究センター巡回指導調査団 団長

日本国国際協力事業団

吳金章

吳 金 章

中国肢体障害者リハビリテーション
研究センター 主任

中 華 人 民 共 和 国

关于中国肢体伤残康复研究中心 技术合作项目会谈纪要

日本国际协力事业团于1990年11月21日至11月28日，向中华人民共和国派遣了以国立康复中心津山直一总长为团长的关于中国肢体伤残康复研究中心项目的巡回指导调查团。

该调查团在中华人民共和国期间，为使本项目卓有成效地实施，就业务的进展情况及具体的合作内容，与吴金章主任为首的中国有关人员交换了意见，并进行了一系列的讨论。

其要点如下：

(一)、关于项目的实施计划

1、关于专家派遣

(1)、日中双方关于1991年的专家派遣计划的一环，即举办下届医师进修班事宜达成了协议。

进修班名称：第二届医师进修班

场所：中国肢体伤残康复研究中心

对象：该研究中心的医师及全国医院从事康复工作的医师
约30~40名。

方法：包括讲课在内的临床实习

预定目标：康复医学理论及有关的临床实习

(2)、中日双方确认：为了更有效地发挥进修班的成果，使日本派遣的理学疗法、作业疗法、语言疗法、假肢支具方面的专家能够顺利地进行现场指导，(中国方面)给予协助。

2、关于接受进修生

中日双方的有关人员与1991年度进修生的候选人进行了面谈。在

对他们进行了专业知识、语言能力综合评价的基础上，就接受以下人员去日本进修一年事宜达成了协议。

姓名	性别	年龄	职务
洪毅	男	31	中国康复研究中心骨科 医师
王安庆	男	31	中国康复研究中心骨科 医师
宫殿兰	女	26	中国康复研究中心外事处医师
戴东	男	25	中国康复研究中心康复部 OT
刘健宇	男	25	中国康复研究中心康复部 PT

(出国)手续待正式邀请书发来后，开始进行。

3、器材提供

关于1991年度的器材提供，中日双方就中国方面尽早整理提出要求一事达成了一致意见。

(二)、本项目的评价内容及方法

中日双方讨论了明年度在本项目的评价调查团派遣时，为进行共同评价在调查团派遣以前应该准备的内容。

具体的评价内容和方法如下：

1、评价内容：

关于技术合作的效果按以下内容进行评价。

I、专业范围：

- (1)、康复医学
- (2)、理学疗法
- (3)、作业疗法
- (4)、语言疗法
- (5)、康复护理
- (6)、假肢支具及与福利有关的器械制造
- (7)、康复工程

(8)、临床、放射线检查

(9)、康复研究中心的管理和运营

(10)、其他

II、研修员

III、提供器材

2、评价方法

评价调查团在视察“中心”及附属医院的同时，也对“中心”的运营状况、医务人员培养状况、回国人员活动状况，及已提供器材的运转状况进行调查。在调查团派遣以前，中日双方要对上述(1)所述内容，就技术合作效果进行总结报告，在双方会议上进行效果评价。

另外，中日双方决定，以下资料由中方向日方提供。

(1)、关于经营管理经费的实际效果的资料

(2)、关于派遣专家的对等人员的配置、及回国人员活动状况的资料

(3)、已供器材的使用、管理状况(设置、运转状况等)的资料

3、其它

(1)、为使派遣专家及协调员能够顺利工作，日方向中方提出，给专家配备翻译，并给协调员配备必要的辅助人员。

(2)、日方要求中方，对已提供的器材进行妥善地放置，保管和管理。另外，在会谈期间，双方还讨论了“中心”的水质和供电问题。

(3)、为使本“中心”顺利运转，中方要求继续提供援助。

1990年11月27日

於： 北 京

津山直一

吴金章

津 山 直 一

吴 金 章

中国康复研究中心巡回指导
调查团 团长

中国康复研究中心
管理主任

吴金章

日本国国际协力事业团

中华人民共和国

別添資料

1. 1990年度供与機材リスト
2. 関連地図
3. 組織機構図
4. カウンターパート等関係者リスト
5. 研究センター人員配置表
6. JICA技術援助調査表
7. 附属病院稼働状況
8. 部門別ベット配置状況
9. 中国障害者連合会機構図

1990年度供与機材リスト

番号	機 材 名	仕 様	メーカー名	数 量
1	クライオン	(400g×2本/1箱)	サ ク ラ	2箱
2	フェイス・マスク (小児用)		I. M. I.	6ケ
3	“ (大人用)		“	6ケ
4	PH標準液	PH 4.01 500ml	東豆電波	4瓶
5	毛細管		日 立	10瓶
6	PH標準液	PH 6.86 500ml	東豆電波	4瓶
7	“	PH 9.13 500ml	“	4瓶
8	高真空用密着剤		日 立	5本
9	NP-400用トナー	黒 4カートリッジ入	キャノン	2個
10	記録紙	264mm×25m	チェスト	20巻
11	ペンキャリッジTEフブリー	B9811ET	“	1個
12	プロッターペン	PL - 500用 4色/セット	“	2組
13	マイクローム替刃 (凍信切片用)	C-35 20枚/デイスペンサー×10/箱	サ ク ラ	20箱
14	フィラメント		日 立	10個
15	SHIPPING・ノズル	105-3086	“	5本
16	アングルローター	RPR 18-3	“	2個
17	連続ローター	RPRC 18-3	“	2個
18	オートサンプラー	Z- 8,000用	“	1台
19	シングルフロッピーディスクドライブ	FDD-IAS (フロッピーディスク10枚付)	島 津	1箱
20	サーキットパッケージ 2ATI	NEAX2,400 IMS PABX用	日本電気	1箱
21	“ 4RST		“	1箱
22	“ 8COT		“	2箱
23	“ 16LC		“	2箱
24	多機能電話機	NEAX-2,400 B term V	“	2箱
25	局線中継台	HA 610 Z	“	1セット
26	チューブラック M		日 立	4個
27	“ OR		“	4個
28	“ BL		“	4個
29	“ K		“	4個
30	ベース A		“	4個
31	チューブラック GR		“	4個
32	Mバケット		“	4個
33	チューブラック YE		“	4個
34	チューブラック M		“	4個
35	スイングロータ	RPRS 4-7	“	1個
36	“	RPRS 3-3	“	1個
37	LKB ラック		“	4個
38	ベース B		“	4個
39	ベース A		“	4個
40	LKB. ラックアダプター		“	4個

番号	機 材 名	仕 様	メーカー名	数 量
41	フィラメント	777-3249	日 立	5個
42	AUターゲット	OIE 1196	"	2個
43	デテクター	HIS 1036	"	5本
44	オイル		"	20本
45	Pf-Pd ターゲット	OIE 1119	"	2個
46	プランジャー		"	5本
47	ノズル R2		"	5本
48	攪拌棒		"	5本
49	ノズル R1		"	5本
50	ルナビューSリフレクター	#7879903	モ リ タ	10個
51	カラーホイル	35米10M青	コ ニ カ	100個
52	ファーストフリーズフラスコ	600mℓ #75408	ラブコンコ	2個
53	"	300mℓ #75406	"	5個
54	インフュージョンポンプ	FP-955	中村医科	3台
55	薬液カップ		"	50個
56	注入加圧パック	45286	日本電気三栄	4個
57	ディスポ血圧キット	45305	"	10箱
58	アダプターコード	47349	"	1本
59	"	47396B	"	5本
60	送信機	A6/A7/A8	"	3台
61	電極コード	47564	"	3本
62	"	47563	"	3本
63	入力コード	47454	"	5本
64	脳波用電極	SEE 101	"	2個
65	EEG 用針電極	45243 (10ヶ/組)	"	2組
66	E. C. G. 電極コード	47350	"	2セット
67	積分ユニット	1322	"	1台
68	標準ガス		"	1本
69	N ₂ ガス	99.9%	"	1本
70	脳波用電極	SEE 101	"	30個
71	記録紙	0511-9004	"	5セット
72	急荷心電図誘導コード	BJ-631E	日本光電	1本
73	ディスポ電極リード	ワック誘導用4本組	"	1組
74	"	口誘導用 10本組	"	1組
75	ファインキャス	AFS-口-17 (50本/箱)	日 機 装	20箱
76	"	AFS-口-19 (50本/箱)	"	20箱
77	ダイアライザー	ALF-120 (12本/箱)	"	12箱
78	シリコンホース	ID25φOD33φ	"	60M
79	"	ID25φOD60φ	"	60M
80	"	ID8φOD14φ	"	50M
81	"	ID5φOD11φ	"	60M

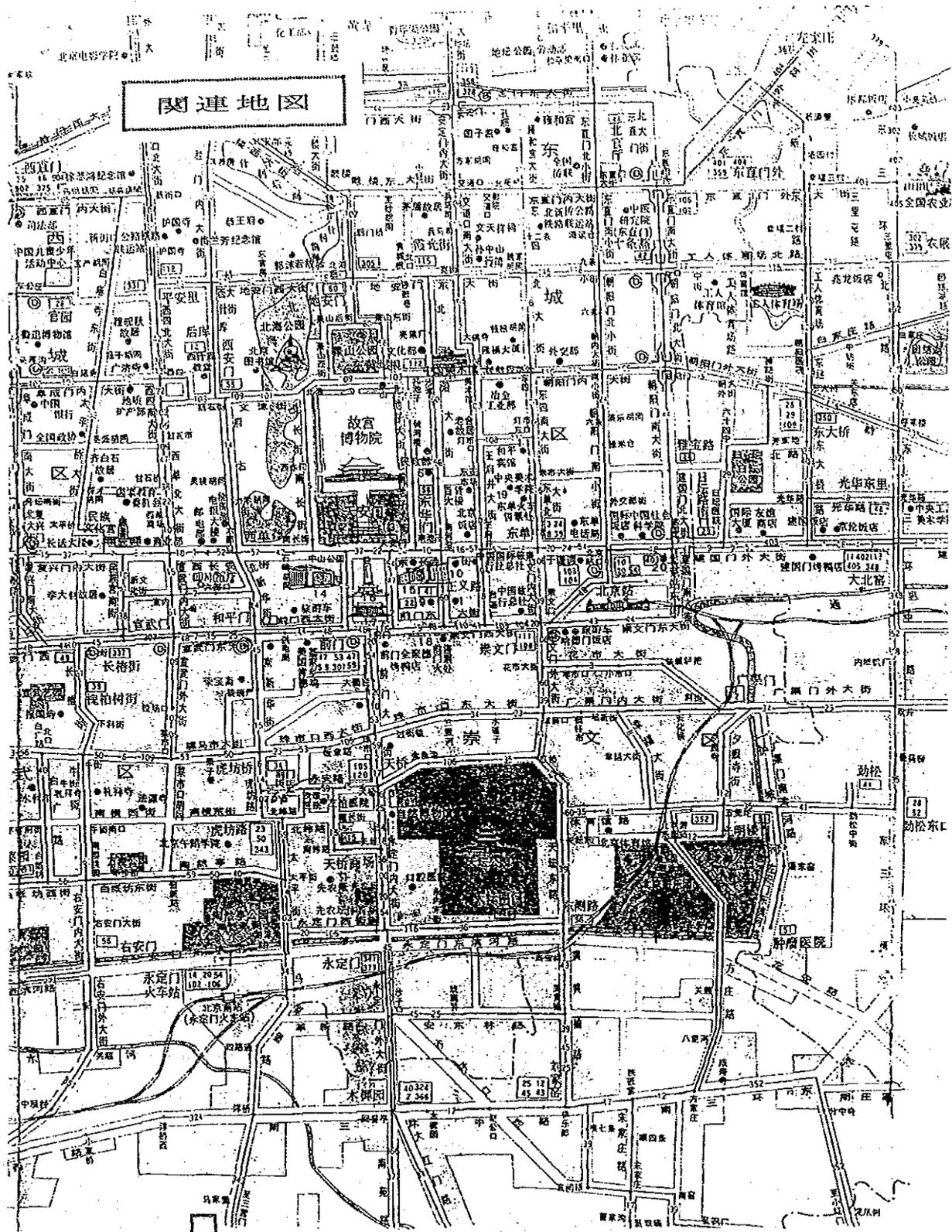
番号	機 材 名	仕 様	メーカー名	数 量
82	A.I ニッコール135mm F ₂ S	(レンズケース フィルター付)	ニ コ ン	1個
83	" 35mm F _{1.4} S	(レンズケース・レンズフード、フィルター付)	"	1個
84	顕微鏡写真装置	UFX-DX(X1)、マウントA(X1)、投量をレンズDL×5(X1)カメラボックス35D×(X1)	"	1セット
85	頸椎索引用ハンガー	OL-1B	O. G. 技研	2個
86	電熱式バック (頸部用)	HE-1C	O. G. 技研	10個
87	マグネスロン	T075-70	"	4個
88	電熱式バック (標準用)	HE-1A	"	10個
89	電熱式ホットボックス	KT-51	"	2個
90	具物鉗子 9Fr	00122	"	2本
91	ヘーベル付ブリッジ (1孔)	A2271	オリンパス	1個
92	電極 (12° /30° ナイフ型)	A2193	"	10個
93	" (ボタン型) 5Fr	00108	"	4個
94	生検鉗子 7Fr	00123	"	1本
95	電極 (ボタン型) 4Fr	00107	"	2本
96	具物鉗子	A2262	"	1本
97	24Fr用電極 (30° ループ)	A2203	"	5本
98	切開用電極	00114	"	2本
99	FK写真接眼用アダプター	PM-ADF	"	1個
100	35mmカメラ用アダプター	PM-D35A	"	1個
101	自動露出計装置	PM-CBAD	"	1個
102	写真用延長接続筒	IMT ₂ MTU-B	"	1個
103	三眼鏡筒	BH ₂ TR30	"	1個
104	カメラ	OM4-TI	"	1個
105	写真用接続筒	IMT ₂ -PT	"	1個
106	自動露出計装置	PM-PBS	"	1個
107	カメラ (35mm)	OM-IN	"	1個
108	カメラコード	EC-28	"	1個
109	写真用接眼レンズ	NKF 3.3×LD	"	1個
110	OM用EEアダプター	SM-ER ₂	"	1個
111	変圧器	AH ₂ -RPL-T	"	1個
112	蛍光用ランプ収納装置	AH ₂ -LSRF	"	1個
113	ポラロイドフィルム	779	ポラロイド	25箱
114	平型アンテナ (発光器内蔵)	MJA-21	酒 井	2個
115	丸型アンテナ	MJA-10	"	2個
116	" (発光器内蔵)	MJA-11	"	2個
117	ウェッジ	T-0795B	"	1個
118	ライトコードゲイン (スミールベース)	L-63.13	"	2個
119	重錘バンド 1.5kg	SPR-591E	"	5個
120	" 1kg	SPR-591D	"	5個
121	ウェッジ	T-0795C	"	1個

番号	機 材 名	仕 様	メーカー名	数 量
122	ウェッジ	T-0795F	酒 井	1個
123	クラッチプロファイル	小児右手R-2398 小児右手R-2399	"	2組
124	重錘バンド 0.5kg	SPR-591B	"	5個
125	" 2kg	SPR-591F	"	5個
126	ウェッジ	T-0795A	"	1個
127	Oリング	SPA-203用	サ ク ラ	10個
128	記録計用インクパット	3打点用(赤・黒)(5ヶ/1箱)	"	20箱
129	"	(5ヶ/1箱)	"	2箱
130	元蒸気圧力計	AT3/8×75×10K	"	2箱
131	蒸気ストレーナ	15A	サ ク ラ	10個
132	プレフィルター	ドーナツ型17枚/組	"	2組
133	メインフィルター	MCY-1001NBW	"	5個
134	プレフィルター	6R-64	"	2個
135	扉パッキン	LX3300 (FOA-12用)	"	2本
136	"	LX3300 (FOA-18用)	"	2本
137	ブローセル (300 μ l円筒形)	204-03285	島 津	1個
138	" (120 μ l角柱形)	204-03285-04	"	1個
139	LCフローセルユニット (12 μ l)	204-5566	"	1個
140	恒温4連続セルホルダー	200-03243	"	1個
141	LCフローセルユニット (120 μ l)	204-06249	"	1個
142	XCランプ (タイマー付)	206-11695-01	"	4個
143	LCフローセルユニット (120 μ l)	204-05566	"	1個
144	プログラムカセット CRF-1	204-05532	"	1個
145	フロッピーディスク (MD2-265HD)	088-58552-01	"	1個
146	感熱チャート	200-91527	"	10巻
147	熱・重量分析	TGA-40M、01-58300-90	"	1セット
148	ハロゲンランプ	062-65004-06	"	2個
149	サンプルシーマー&クリッパー	SSC-30、201-52000-90	"	1台
150	シールセル (50ヶ入)	201-53090	"	5セット
151	クリンプセル (50ヶ入)	201-52943	"	10セット
152	サーマルヘッド	200-74035	"	1ヶ
153	マイクロセル (10mm)	200-66501	"	2ヶ
154	フォトセルアッセイ	228-14512-91	"	1組
155	プログラムカセット	CRF-1、CRF204-05523	"	1組
156	恒温セルホルダー	202-30858-02	"	1個
157	3ポンプインターフェイス	228-15248-91	"	1個
158	LCフローセル (12 μ l)	204-05566	"	1個
159	ミッキングブロック	228-20800-91	"	1個
160	デュアルフロッピーディスクドライブ	FDD-1AW(フロッピーディスク10枚付)	"	1個
161	リキッドポンプ (LC-6A、115P)	228-14000-92	"	1個
162	PB-1 ASSY	228-14875-91	"	1個

番号	機 材 名	仕 様	メーカー名	数 量
163	フォトダイオード	200-74056	島 津	1個
164	ホトマル	200-75002-01	"	1個
165	ミキシングブロック	228-20800-91	"	1個
166	リキッドポンプ(LC-6A、H5P)	228-14000-92	"	1個
167	カリキュレート	940型	フクダ電子	1台
168	CO ₂ アナライザー	930型	フクダ電子	1台
169	マグネトロン	RS-1023 (SIRETHERM-709用)	"	4個
170	タイムコードジュネレーター	BKE-906	ソ ニ ー	1台
171	キャッチディスクユニット	SMT-7050	"	2台
172	マルチプルインターフェイスボックス	IF-500	"	1台
173	タイムコードリーダー	BKE-905	"	1台
174	カメラコネクティングケーブル	CCSQ-A ₂	"	1本
175	ステレオヘッドホーン	MDR-CD777	"	1個
176	エレクトレットコンデンサーマイク	C-76	"	1台
177	データテープ	SIT-90F	"	40枚
178	ハローベストシステム	HT002×1、HT026×1、HV102×1、HS102×1	タクト医療	1台
179	ハロースケール		I. M. I.	2個
180	PH計用電極	GST-5311C	東 亜 電 波	4本
181	穿刺溝付き術中プローブ	63mm5MHZ 10E5065	東 芝	1個
182	マイクロ術中プローブ	26mm7.5MHZ 10E702V	"	1個
183	マイクロ術中プローブ	34mm7.5MHZ 10E702H	"	1個
184	X線管球	1500KHU C×B-150	"	1個
185	水袋キット	WBK-05E(水袋スベア12枚/箱×10付)	"	1個
186	穿刺アダプター	11AGV008Aコンベックスプローブ用	"	1個
187	真空ポンプオイル		日 立	4本
188	マイクローム油(500ml)		サ ク ラ	10本
189	工業用ミシン針(10本/セット)	No.14 DB2-B735-1型用	プ ラ ザ ー	5セット
190	"	" "	"	5セット
191	蛍光灯	(超マイクローム用) 870027	ライヘルト	10個
192	感光紙(A1、250枚入)		ミノルタ	10袋
193	対物可動絞り		日 立	5個
194	記録針(20本入)		デュプロ	20袋
195	拡口用錐	GC435	エースクラップ	1個
196	"	GC434	"	1個
197	"	GC433	"	1個
198	"	GC332	"	1個
199	ソーブレード	GC533	"	1個
200	"	GC531	"	1個
201	拡口用錐	GC432	"	1個
202	ツイストドル	GC429	"	1個
203	"	GC428	"	1個

番号	機 材 名	仕 様	メーカー名	数 量
204	デルマトーム用スベアブレード	GB228 (10枚入)	エースクラップ	10組
205	ピストル型グリップ	GB101	"	1個
206	ツイストドリル	GC103	"	2個
207	"	GC106	"	2個
208	ドアイヤンバー	GC075	"	3個
209	"	GC076	"	3個
210	ツイストドリル	GC410	"	1個
211	"	GC420	"	1個
212	ヤコブスチャック (GA31付)	GB105	"	2個
213	ツイストドリル	GC412	"	1個
214	"	GC423	"	1個
215	"	GC414	"	1個
216	"	GC415	"	1個
217	"	GC416	"	1個
218	"	GC417	"	1個
219	"	GC419	"	1個
220	ソープレイド	GC566	"	1個
221	"	GC568	"	1個
222	ツイストドリル	GC012	"	2個
223	リーマドライブハンドピース	GB122	"	1個
224	ボルシャルトチャック付ハンドピース	GB100	"	1個
225	アダプター	GB185	"	1個
226	"	GB188	"	1個
227	"	GB189	"	1個
228	"	GB07	"	1個
229	"	GB116C	"	1個
230	レシプロケーシングソー	GD310	"	1個
231	ソープレイド	GB321	"	1個
232	替刃式ソープレイド (10枚)	GC615	"	1個
233	シャンク	GC610	"	1個
234	ソープレイド	GD320	"	1個
235	レシプロケーティングソーマイクロハンドピース	GD305	"	1個
236	ラスポ	GC601	"	1個
237	ワイヤーバスケット	JF499	"	1個
238	レシプロケーティングソーマイクロハンドピース	GB130	"	1個
239	丸型フィルターペーパー	6枚入70φmm 297-908-04	村 中	20包
240	ラスポ	GC602	エースクラップ	1個
241	"	GC600	"	1個
242	逆汚染防止ピース		大研医器	150本
243	ダンピングチューブ		マンソン	10本
244	ディスポーザブル・ドーム		マンソン	20個

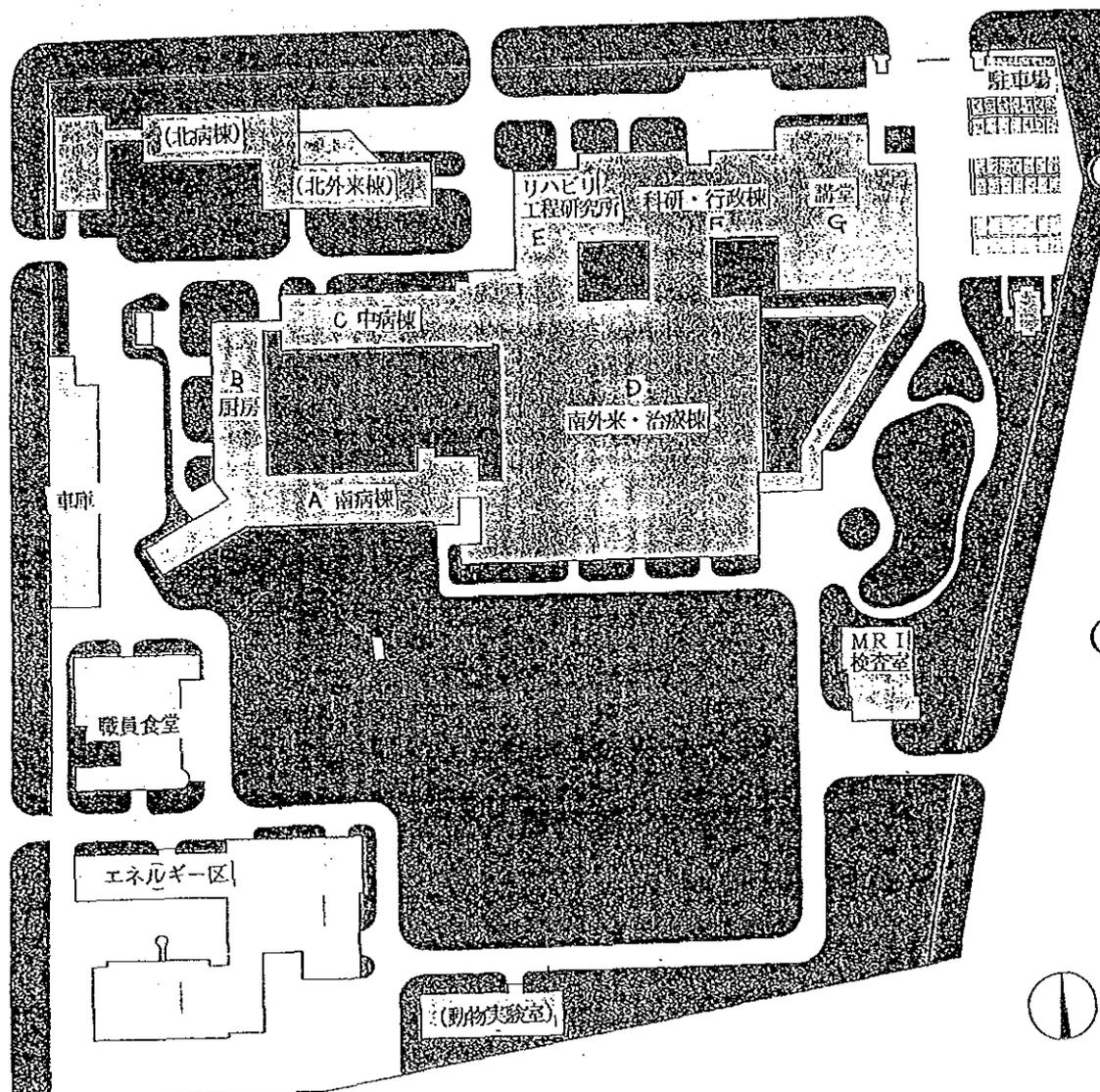
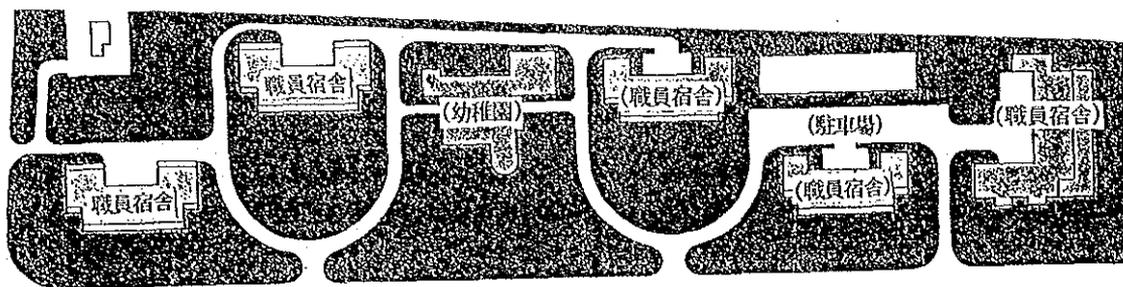
番号	機 材 名	仕 様	メーカー名	数 量
245	マンメータ接続用チューブ (薄)		マンソン	20本
246	プロッター用ペン	(黒、紅、藍、緑)	"	1セット
247	膀胱内圧測定用カテーテル	ダブル・ルーメン	"	10本
248	マンメータ接続用チューブ (厚)		"	10本
249	11-D5000用記録紙		"	5巻
250	UPP用カテーテル	ダブル・ルーメン	"	10本
251	直腸用バルーンカテーテル		"	20本
252	直腸用カテーテル		"	20本
253	除菌フィルター (0.2 μ)		東 南	5個
254	フィルタエレメント (25 μ)		"	20個
255	ROモジュール	TW30-4619	"	1本
256	フィルタエレメント (5 μ)		"	10個
257	PH計用電極		東亜電波	2本
258	Grinding Rasp		敬愛義肢	1個
259	Grinding Fine Rasp		"	1個
260	グレードホルダー (チャックタイプ)		泉工医科	20個
261	ディスプレイザブル対極板	(ソニーパッド10枚/1箱)	"	50箱
262	シリンジ (20ml)	100本1箱	テルモ	1箱
263	標準ガス (12本/1箱)	CO ₂ :5.5% O ₂ :16.1% N:78.4%	日本酸素	1箱
264	塑料球	直径:120cm	学習研究社	2個
265	平衡球	直径:73mm	"	2個
266	SS-5421用プローブ	SS-0044	岩 研	1組
267	" 電源コード	C-99-C2	"	1体
268	真空ポンプオイル	"	日 立	4本
269	輸液セット	(50入/1箱)	中村医科	3箱
270	小児移動式歩行補助平行棒	SPR-3240	酒井医療	1台
271	ソノプリンター (ソノペーパー10箱)	220V/PAL TP-8700	東 芝	1セット
272	可動絞り	509-1575	日 立	20個
273	レスピューダ	6713	日本電気三栄	2台
274	インク吸取紙	50枚/1箱	"	10箱



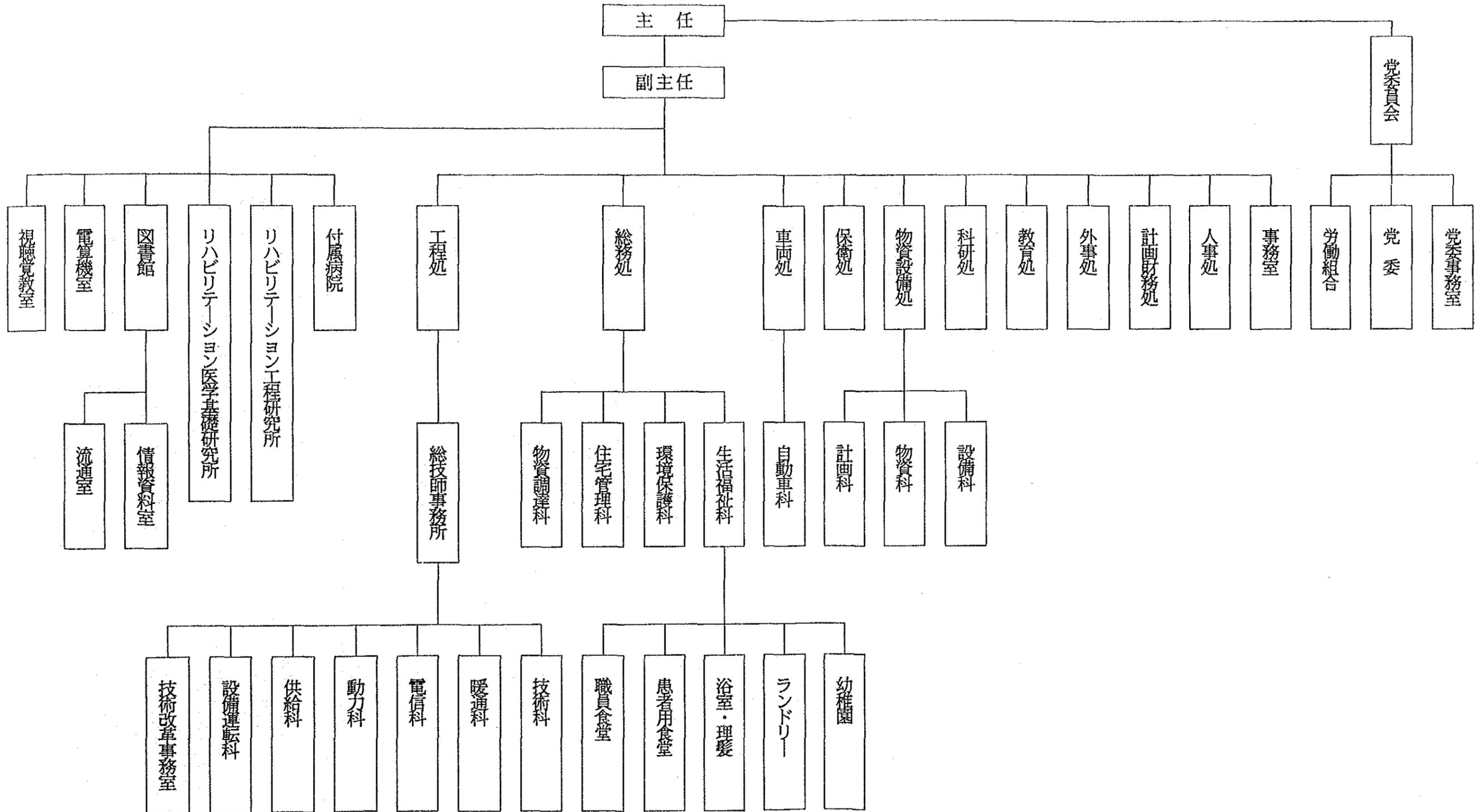
中国肢体障害者リハビリテーション研究センター

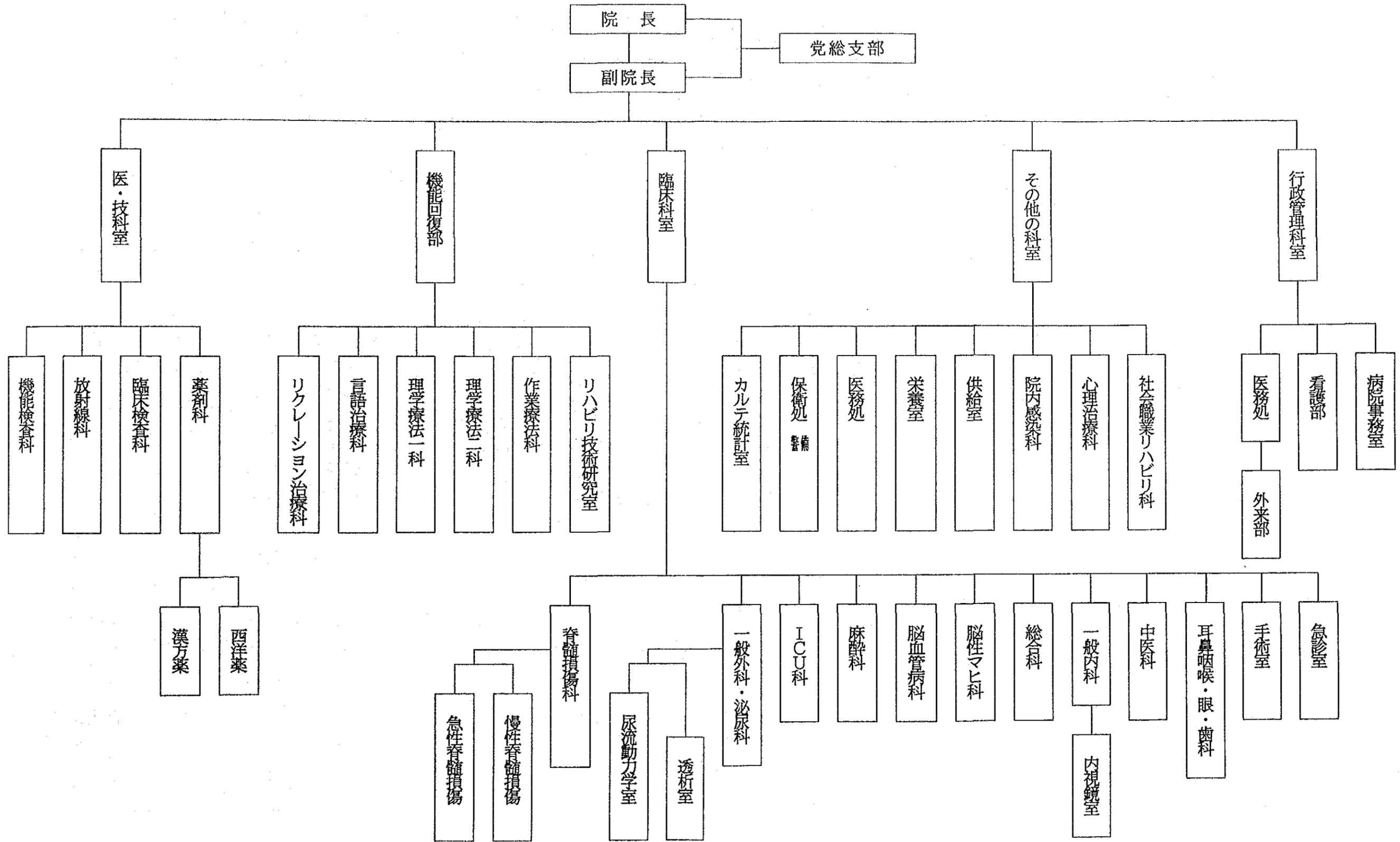
中国・北京 2019 信箱
 丰台区角门北路 10 号
 邮政编码: 100077

日本专家电话: 7213322-6018
 7213322-6016
 外事处电话: 7213428
 电传: (86-1)-721.3676



() 内は未完成施設





中国肢体障害者リハビリテーション研究センター
 (カウンターパート等主要機関関係者リスト)

1990年11月15日現在

No	氏名	役職	役割	No	氏名	役職	役割
1	呉金章	センター主任	総責任者	24	方玉美	付属病院看護部 主任	
2	葛立新	センター副主任兼リハ工程研究所長	技術協力担当	25	謝德利	〃 副主任	
3	邢肇訓	〃 兼付属病院長	教育担当	26	呉金灼	〃 機能回復部PT長	(日本研修中)
4	于肇英	〃 兼リハ医学基礎研究所長		27	陳小梅	〃 OT長	(〃)
5	呉弦光	センター副主任兼付属病院副院長、同機能回復部長		28	姜燕	〃 PT	(副長代行)
6	国楽平	センター副主任		29	楊永徳	〃 PT副長	(長代行)
7	繆鴻石	センター顧問		30	鳳麗	〃 医師	
8	周延禎	外事処処長(入院中)	業務調整	31	古娟	〃 OT副長	(長代行)
9	王淑茗	外事処副処長(処長代行)	〃	32	陳淑輝	〃 OT(副長代行)	(10月退職)
10	李全珠	教務処長	研修会業務調整	33	王徳洪	研修会通訳 医師	
11	喬新生	物資設備処長	医療機器担当	34	趙春生	〃 (グループ指導通訳) 〃	
12	李慶勇	付属病院副院長兼病院事務室主任		35	陳立嘉	〃 〃 〃	
13	丁伯坦	〃 医務処副処長	病院業務調整	36	何静杰	〃 〃 〃	
14	于兌生	〃 機能回復部副主任	リハビリ医学分野	37	陳巍	〃 〃 〃	
15	紀樹栄	〃	〃	38	宮殿蘭	〃 〃 外事処(医師)	
16	周天健	〃 脊髄損傷科主任					
17	高明哲	〃 内科副主任					
18	朱備連	〃 神経内科主任					
19	田心明	〃 脳性マヒ科主任					
20	陳坤	〃 総合科主任					
21	周国昌	〃 脳外科主任					
22	馬洪路	〃 SW科主任					
23	薛桂栄	〃 心理リハ科主任					

中国肢体障害者リハビリテーション研究センター
人員配置表

1990年11月15日現在

(職員数は主任・副主任数を含まない)

部門名	主任	副主任	職員数
研究センター	吳金章 ※指導グループ	邢肇翽 蔓立新 国榮平 張繁並 于肇英 吳肇光	
・事務室		孫金忠	15
・計画財務処	王民培 (処長代理)	顧家柔	37
・科研処	耿軍		3
・教育処	李全珠		5
・人事処	杜俊琪		7
・外事処	王淑茗 (処長代理)		4
・物資設備処	邵振華	喬新生 (処長代理) 李寿舫	26
・工程処	鄭躍庶	張德全	130
・保衛処		王学信	10
・総務処	徐進	丁連生	71
・基建処		陳冲	20

部 門 名	主 任	副 主 任	職 員 数
附属病院	邢 肇 詡	吳 弦 光 国 染 平 李 清 勇	
(行政管理科室)			
・ 病院事務室	李 清 勇		5
・ 看護部	方 玉 美	謝 德 利	2 1 4
・ 医務処		丁 伯 坦 崔 三 生	5
・ 外来部			
・ 財務部			
・ 総務部			
(大外科)			
・ 急性期脊損科	周 天 建	閔 驛	8
・ 慢性期脊損科		汪 家 琮	6
・ 整形外科	崔 寿 昌	焦 玉 坦 丁 伯 坦	1 2
・ 泌尿器外科	徐 祖 予		7
・ 麻酔科	段 成 龍	迟 肇 丛	3
・ 一般外科	王 聰		3
(その他臨床科室)			
・ ICU科		董 青	7

部 門 名	主 任	副 主 任	職 員 数
・ 普通内科		田 泪	9
・ 脳欠陥症科	朱 連	王 瑞 華	8
・ 総合科	陳 鏞 連	黄 左 慶	5
・ 幼児脳性麻痺科	田 心 明	胡 莖 媛	5
・ 中医科		付 克 礼 (主任代理)	11
・ 五官科	賀 乃 尧		3
・ 社会リハビリ科 (リハビリテーション科)	馬 洪 路		13
・ 機能回復部	呉 弦 光		2
・ リハビリ技術研究所	紀 樹 栄		20
・ PT二科	喬 志 恒		12
・ OT科			20
・ PT一科	于 兌 生		27
・ 言語治療科	李 勝 利		5
・ 心理療法科	薛 桂 栄		3
(医技科室)			
・ 薬剤科	王 佳 英	陶 德 芳	23
・ 臨床実験科	金 学 源		17
・ 撮影科	奚 預 聰	隋 邦 森	29
・ 機能検査科	張 蘊 忱	郁 土 娟	13

部 門 名	主 任	副 主 任	職 員 数
リハビリ医学基礎研究所	于 肇 英	印 文 考	
・ 研究所事務室	于 肇 英		2
・ 神経薬物研究室	谷 月 卿		2
・ 神経生理研究所			4
・ 神経生化・分子生物学 研究所	于 肇 英		7
・ 免疫研究室	印 文 考		3
・ 病理研究室	謝 大 鶴		6
・ 細胞研究室			4
情報資料室	孟 繼 祥		18
コンピューター室	王 民 培	張 光 照	3
視聴覚教室	李 光 明	王 力 軍 張 罗 罗	11

部 門 名	主 任	副 主 任	職 員 数
リハビリ工程研究所	朱 函 陵 (主任代理)		
・ 研究所事務室		毛 培 程 戚 湘 田 趙 輝 三	3
・ 標準化・検査測定室	于 連 甲		4
・ リハビリ工程材料研究室	朴 東 旭	戚 文 淑	4
・ 義肢装具研究室	朱 函 陵		7
・ 生物力学研究室	劉 永 斌		5
・ リハビリ電気機器研究室	戚 湘 田		1 1
・ リハビリ機械研究室	王 樹 斌		6
・ 中間試験作業室	謝 軍		6

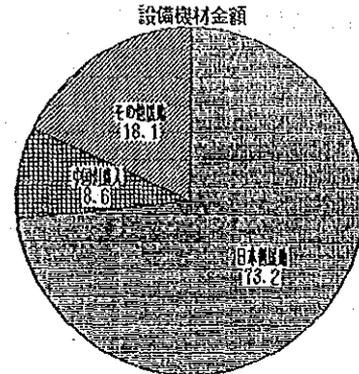
中国肢体障害者リハビリテーション研究センター

JICA技術援助調査表

1990年11月13日現在

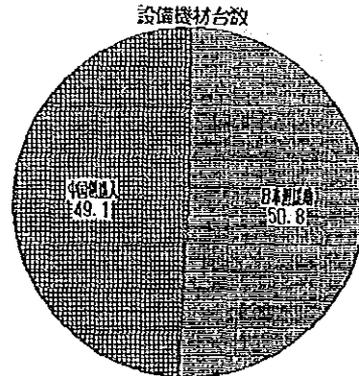
1 設備機材金額

日本側援助	5051万元（人民币）
中国側購入	595万元（＃）
その他援助	1250万元（＃）



2 設備機材台数

日本側援助	1608台
中国側購入	1553台
その他援助	1セット（MRI：西ドイツ援助）



※ 表中には医学、教育、研究に用いる設備機材を包括している。

※ 日本円と人民币の比率は、30対1の割合で統一した。

J I C A 技術援助調査表 (1)

単位：万元（人民币）

部門名称		日本側援助 設備機材金額	中国側購入 設備機材金額	その他援助 設備機材金額
博愛病院	医務処	4.4	0.7	0
	急患室	22.4	2.3	0
	感染科	0.2	0.31	0
	急性脊髄損傷	9.4	1.1	0
	慢性脊髄損傷	17.7	16.8	0
	泌尿科	194.8	2.0	0
	整形外科	72.6	2.2	0
	映像科	1054.4	16.2	1250
	検査科	266.8	1.2	0
	薬剤科	16.8	5.4	0
	麻酔科	62.9	16.8	0
	手術室	205.2	10.0	0
	婦人科	1.2	0.6	0
	神経内科	49.6	1.4	0
	内科	13.9	1.8	0
	総合科	42.4	4.3	0
	眼科	7.9	0.6	0
	耳鼻咽喉科	15.3	0.2	0
	口腔科	21.6	2.1	0
	ICU	96.6	0.8	0
機能検査	545.6	1.7	0	

部門名称		日本側援助 設備機材金額	中国側購入 設備機材金額	その他援助 設備機材金額
博愛病院	社会リハビリ	0	0.8	0
	運動療法科	190.0	0.2	0
	リハビリテーション科	1.9	0.15	0
	リハビリ技術室	87.9	1.4	0
	物理治療	225.9	1.74	0
	作業治療	67.4	2.1	0
	言語治療	19.2	0.2	0
	中医科	0.9	0.8	0
	脳性麻痺科	18.6	5.1	0
	心理科	17.5	3.0	0
	供給室	113.1	0.9	0
	看護部	64.5	0	0
	外来部	3.3	3.9	0
	中薬室	0.3	0.7	0
	病室施設	64.0	24.0	0
基礎研究所	免疫室	11.6	24.1	0
	生理室	125.3	41.6	0
	薬理室	19.9	4.6	0
	細胞室	28.6	0.9	0
	生化室	108.2	98.0	0
	病理室	172.7	0.5	0

部門名称		日本側援助 設備機材金額	中国側援助 設備機材金額	その他援助 設備機材金額
リハビリ科	生物力学室	181.0	15.7	0
	高分子室	24.4	9.5	0
	電器室	33.3	1.6	0
	材料測定室	2.7	0	0
	義肢装具製作所	284.6	0	0
	部品製作室	0	36.0	0
	事務室	1.3	3.0	0
その他	電教室	262.4	60.0	0
	情報室	41.7	9.4	0
	計算器室	0	23.4	0
	車 隊	140.8	131.0	0
	行政処室	16.3	21.3	0
合 計		5051	595.1	1250

J I C A 技術援助調査表 (2)

単位：台

部門名称		日本側援助 設備機材台数	中国側購入 設備機材台数	その他援助 設備機材台数
博愛病院	医務処	4	2	0
	急患室	15	17	0
	感染科	1	5	0
	急性脊髄損傷	21	15	0
	慢性脊髄損傷	20	20	0
	泌尿科	22	20	0
	整形外科	28	25	0
	映像科	36	87	1
	検査科	71	10	0
	薬剤科	34	68	0
	麻酔科	27	25	0
	手術室	81	73	0
	婦人科	1	16	0
	神経内科	41	29	0
	内科	24	39	0
	総合科	30	33	0
	眼科	9	19	0
	耳鼻咽喉科	9	3	0
	口腔科	17	24	0
ICU	41	22	0	
機能検査	21	27	0	

部門名称		日本側援助 設備機材台数	中国側購入 設備機材台数	その他援助 設備機材台数
博愛病院	社会リハビリ	0	2	0
	運動療法科	94	4	0
	リハビリテーション科	6	2	0
	リハビリ技術室	6	12	0
	物理治療	59	39	0
	作業治療	50	22	0
	言語治療	10	4	0
	中医科	1	57	0
	脳性麻痺科	47	97	0
	心理科	4	8	0
	供給室	16	15	0
	看護部	46	0	0
	外来部	14	74	0
	中薬室	1	4	0
	病室施設	100(ベッド)	100(ベッド)	0
基礎研究所	免疫室	11	21	0
	生理室	9	20	0
	薬理室	6	11	0
	細胞室	11	10	0
	生化室	7	9	0
	病理室	19	10	0

部門名称		日本側援助 設備機材台数	中国側援助 設備機材台数	その他援助 設備機材台数
リハビリ工程所	生物力学室	4	4	0
	高分子室	7	29	0
	電器室	26	7	0
	材料測定室	6	0	0
	義肢装具作業所	103	0	0
	部品製作室	0	28	0
	事務室	3	13	0
その他	電教室	361	161	0
	情報室	6	17	0
	計算器室	0	51	0
	車 隊	9	22	0
	行政処室	13	54	0
合 計		1608	1553	1セット

中国肢体障害者リハビリテーション研究センター附属病院稼働状況

1 入院患者数統計(1989年10月~1990年10月)

	整形外科 (A.1病棟)		慢性骨髄 (A.2病棟)		神経内科 (A3病棟)	総合病棟 (A4病棟)	脳性麻痺 (C.1病棟)		産婦人科 (C2病棟)	一般内科 (C.3病棟)	
	慢性期	リハビリ	整形外科	一般外科			泌尿外科	脳性麻痺		小児整形	内科
ベット数	32	8	24	8	32	20	16	12	28	24	4
患者数	103	27	244	67	142	52	83	58	106	233	8
比率	8.90	2.33	21.07	5.79	12.26	4.49	7.17	5.01	9.15	20.12	0.69

2 外来患者数統計(1989年10月~1990年10月)

	一般内科	神経内科	脊髄損傷	整形外科	一般外科	眼科	脳性麻痺 (小児)	中医科	耳鼻科	眼科	リハビリ	物理療法	婦人科	義肢装具
患者数	4,566	1,471	897	3481	1045	174	1634	1160	731	772	265	308	811	90
比率	26.08	8.40	5.70	19.89	5.97	1.00	9.33	6.63	4.18	4.41	1.51	1.76	4.63	0.51

3 外来患者（診療）数統計（1988年10月～1990年10月）

	合計	89年10月	11月	12月	90年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
外来患者数	29,744	1,484	1,500	1,690	1,235	1,797	2,427	3,134	2,860	2,450	2,808	3,063	2,580	2,718
外来治療延べ日数	316	20	21.5	22	22	24	27	25	26	26	26	27	25.5	25
1日当りの平均外来数	94.13	74.20	69.77	76.82	56.14	74.88	89.89	125.36	110.00	94.24	107.92	113.44	101.18	108.72
10月を100とした伸び率 (%)	—	100	101.08	113.88	83.22	121.09	163.54	211.19	192.72	165.09	189.08	206.40	173.85	183.15

4 救急患者数統計（1989年10月～1990年10月）

	合計	89年10月	11月	12月	90年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
救急患者数	3929	178	183	274	275	220	274	246	258	297	395	468	289	322
救急治療延べ日数	396	31	30	31	31	28	31	30	31	30	31	31	30	31
1日当りの平均救急患者数	9.29	5.74	6.1	8.84	8.87	7.86	8.84	8.20	8.32	9.90	12.74	15.10	9.63	10.39
10月を100とした伸び率 (%)	—	100	102.81	153.93	154.48	123.60	153.93	138.20	144.94	166.85	221.91	262.92	162.35	180.90

5 ベット使用状況 (1989年10月～1990年10月)

	合計	89年10月	11月	12月	90年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ベット使用延べ日数	71,477	3754	4390	4754	4327	4116	5976	6059	6239	6518	6693	6430	6058	6193
ベット使用可能延べ日数	85,536	6696	6480	6696	6696	6043	6696	6480	6696	6480	6696	6696	6480	6696
ベット開設数	216	216	216	216	216	216	216	216	216	216	216	216	216	216
1日当りベット平均使用率	180.50	180.50	121.08	142.17	153.36	147.80	192.78	201.96	210.26	217.27	214.94	207.42	201.93	199.77
ベット使用率 (%)	83.56	56.06	65.82	71.00	64.62	68.06	89.25	93.50	93.18	100.59	99.51	96.03	93.49	92.49
ベット平均回診数 (回)	4.35	0.19	0.31	0.38	0.38	0.26	0.44	0.53	0.37	0.52	0.56	0.57	0.56	0.38

6 入院患者医療費収入統計 (1989年10月～1990年10月)

	合計	診療費	入院費	放射線費	医薬品費	臨床検査費	輸血費	手術費	その他
収入金額 (元)	4,014,521.28	1,635,987.15	632,440.00	335,383.50	766,656.06	63,500.56	80,614.40	77,219.00	422,720.61
1ベット1日当りの平均医療費 (元)	10137.68	4131.28	1597.07	846.93	1,936.00	160.35	203.57	195.00	1,067.48
比率	100%	40.75	15.75	8.35	19.10	1.58	2.01	1.92	10.54

7 退院患者治療効果統計(1989年10月～1990年10月)

病気の分類	合計	伝染病系	癌系	内分泌系	血液系	精神病系	神経内科系	眼科系	循環器系
退院者総数(人)	871	63	34	12	4	12	120	2	165
退院者患者数(人)	837	55	33	12	4	12	109	2	161
内	247	12	11	3	2	3	7	1	22
好転人数	504	41	11	7	2	8	78	1	118
未治人数	65	2	5	2		1	21		15
死亡人数	21		6				3		6
その他の退院者数(人)	34	8	1				11		4

病気の分類	呼吸器系	消化器系	泌尿器系	生殖系	皮膚系	筋肉系	先天病系	損傷系	その他
退院者総数(人)	64	39	27	9	6	77	32	133	12
退院者患者数(人)	63	39	27	9	6	73	31	189	12
内	47	28	12		4	22	11	56	6
好転人数	11	10	15	9	2	49	19	119	4
未治人数						2	1	14	2
死亡人数	5	1							
その他の退院者数(人)	1					4	1	4	4

8 入院患者手術統計(1989年10月~1990年10月)

No.	手術名	病例数	No.	手術名	病例数	No.	手術名	病例数
1	滑動縫合術	31	7	鋼板摘出術及び内固定術	43	13	神経筋腱吻合術	9
2	腱延長術	69	8	ハリントン固定術	23	14	断端形成術、義肢の装着	1
3	椎間板減圧術	58	9	膀胱、尿道手術	12	15	脊髓視床路の切断術	1
4	関節融合術	22	10	大腿骨頭置換術	1	16	緩解・植皮整形術	56
5	内固定術	39	11	椎間盤切除術	3	17	胸管結札術と胸椎骨移植術	1
6	腹部外科手術	32	12	切断術	25	18	その他	28

9 療育能回復部治療、訓練充實計(1989年11月~1990年10月)

		1990年												
		1989年												
		11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
入院	延べ人数(人)	73	66	49	100	103	97	102	100	103	96	98	90	1077
退院	延べ人数(人)	58	71	78	45	81	107	73	102	107	110	104	68	1004
リハビリ治療総人数		2557	2434	1622	1889	3052	2835	3144	3485	2914	2749	2430	1955	3118
理学療法	脊髄損傷	379	35	381	108	652	608	750	796	499	580	620	391	5849
	片麻痺	616	672	400	543	664	628	636	845	698	624	471	517	7314
	脳性麻痺	256	162	81	126	288	304	235	310	235	237	255	213	2712
	小計	1251	918	872	777	1604	1540	1621	1951	1432	1441	1346	1121	15875
作業療法	脊髄損傷	99	512	113	371	300	328	310	232	266	165	144	109	2949
	片麻痺	662	654	493	485	780	698	723	821	774	666	441	352	7549
	脳性麻痺	194	200	74	155	223	229	364	361	321	305	289	215	2930
小計		955	1366	680	1011	1303	1255	1397	1414	1361	1136	874	676	13428
言語	失語	353	149	70	101	145	90	126	120	121	172	210	158	1815
	小計	353	149	70	101	145	90	126	120	121	172	210	158	1815
リハビリ訓練延べ総数		7972	8363	5214	4005	9578	10516	13897	17553	10976	7159	5248	4581	105062
内訳	理学療法訓練	5231	6109	3778	2641	7917	8615	11391	14746	8847	5704	4155	3726	82860
	作業療法訓練	2388	2105	1366	1263	1516	1800	2383	2687	2006	1285	900	697	20396
	言語療法訓練	353	149	70	101	145	101	123	120	123	170	193	158	1806

1.0 職 員 職 種 構 成 (1990年11月現在)

医 師	172	看 護 婦	214	医 師 技 術 員	115	薬 剂 師	22	管 理・庶 務	29
主任医師	10	副主任看護婦	1	主管技師	10	副主任薬剤師	2	行政管理	8
副主任医師	33	主管看護婦	6	技師	22	主管薬剤師	4	庶務	20
主治医師	59	看護師	23	技士	83	薬剤師	9		
レジデント医師	70	看護士	184			薬剤士	7		

※ 一部の医事以外の総務・庶務関連部門は病院職員に含んでいない。

1.1 職 員 年 令 構 成 (1990年11月現在)

年 令	20~24	25~29	30代	40代	50代	60代	合 計
職 員 数	222 (40.22%)	101 (18.30%)	75 (13.59%)	77 (13.95%)	59 (10.68%)	18 (3.26%)	552 (100.00%)
内 訳	男性	47 (8.51%)	39 (7.06%)	32 (5.80%)	27 (4.89%)	28 (5.07%)	189 (33.15%)
	女性	175 (31.70%)	62 (11.23%)	43 (7.79%)	50 (9.06%)	31 (5.62%)	8 (1.45%)

中国肢体障害者リハビリテーション研究センター附属病院稼働状況

1. 入院患者数統計 (1989年3月~10月)

	整形外科 (A.1病棟)	慢性期脊損 (A.2病棟)	神経内科 (A.3病棟)	総合病棟 (A.4病棟)	脳性麻痺 (C.1病棟)	急性期脊損 (C.2病棟)	一般内科 (C.3病棟)	ICU	合計
患者数	99 (25.26%)	46 (11.73%)	84 (21.43%)	11 (2.81%)	23 (5.87%)	64 (16.33%)	58 (14.78%)	7 (1.78%)	392
ベッド数	40	40	32	20	28	28	24	4	216

2. 外来患者数統計 (1989年3月~10月)

	一般内科	神経内科	脊髄損傷	整形外科	一般外科	泌尿器外科	脳性麻痺 (小児)	中医科	耳鼻咽喉科	眼科	合計
患者数*	1,364 (31.19%)	514 (11.58%)	310 (6.89%)	666 (15.01%)	322 (7.26%)	49 (1.10%)	298 (6.71%)	576 (12.98%)	176 (3.96%)	143 (3.22%)	4,438

* 受け付け患者数

3 外来患者（診療）数統計（1989年2月～9月）

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
外来患者数*	171人	573	719	632	579	874	1,477	1,367	6,392
外来治療延べ日数	13.0日	22.5	20.5	20.5	22.0	21.5	22.5	21.5	164
1日当りの平均外来数	13.15人	25.47	35.07	30.83	26.32	40.65	65.64	63.58	38.97
2月を100とした伸び率(%)	100%	183.69	286.69	234.44	200.14	309.13	499.16	483.51	286.39

* 実質患者診療数（他病院からCTスキャン等の検査のみ来ている患者数は含まない）

4 救急患者数統計（1989年2月～9月）

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
救急患者数	10人	68	83	244	150	180	166	191	1,092
救急治療延べ日数	5.0日	31.0	30.0	31.0	30.0	31.0	31.0	30.0	219
1日当りの平均救急患者数	2.00人	2.19	2.77	7.87	5.00	5.81	5.35	6.37	4.99
2月を100とした伸び率(%)	100%	109.50	138.50	393.50	250.00	290.50	267.50	318.50	249.50

5 ベッド使用状況 (1989年3月~9月)

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
ベッド使用延べ日数	431	949	1,468	1,733	2,525	3,066	3,557	13,729
ベッド使用可能延べ日数	1,488	1,380	4,061	3,540	3,658	6,690	6,480	27,303
ベッド開設数	48	46	131	118	118	216	216	
1日当りベッド平均使用数	13.9	31.6	46.5	57.8	81.5	98.9	118.6	64.15
ベッド使用率 (%)	28.27	68.77	36.15	48.85	69.03	45.78	54.89	50.28
ベッド平均回転数 (回)	0.06	0.22	0.12	0.38	0.24	0.18	0.36	1.56

6 入院患者医療費収入統計 (1989年3月~9月)

	診療費	入院費	放射線費	医薬品費	臨床検査費	輸血費	手術費	特別看護費	その他	合計
収入金額 (元)	193,042.93	63,410.00	50,424.00	48,722.00	6,879.15	5,728.60	4,880.00	559.80	76,084.26	449,759.69
1ベッド1日当りの平均医療費 (元)	22.17 (42.93%)	7.28 (14.11%)	5.79 (11.20%)	5.69 (10.84%)	0.79 (1.54%)	0.66 (1.27%)	0.56 (1.08%)	0.07 (0.13%)	8.74 (16.92%)	51.66 (100.00%)

* ベッド使用延べ日数 8,706日 (表5のベッド使用延べ日数との差は、入院費を支払わずに退院した者がいるため)

7 退院患者治療効果統計 (1989年3月~9月)

	中枢神経系統	整形外科系統	心臓循環器系統	呼吸器系統	消化器系統	泌尿器系統	その他	合計
退院者総数 (人)	54	94	13	23	19	8	8	219
退院患者数 (人)	50	74	13	23	19	8	8	195
内								
完治人数	3 (6%)	28 (37.84)	4 (30.77)	13 (56.52)	13 (68.42)	4 (50.00)	2 (25.00)	67 (34.36)
好転人数	35 (70%)	39 (52.70)	9 (69.23)	9 (39.13)	5 (26.32)	3 (37.50)	5 (62.50)	105 (53.84)
未治人数	10 (20%)	7 (9.46)	0 (0)	0 (0)	1 (5.62)	1 (12.50)	1 (12.50)	20 (10.26)
死亡人数	2 (4%)	0 (0)	0 (0)	1 (4.35)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1.54)
その他退院者数 (人)*	4	20	0	0	0	0	0	24

* その他退院者とは、入院しても治療を受けずに退院した者と天安門事件関係の入院者を示す

8 入院患者手術統計 (1989年3月~9月)

No	手術名	症例数	No	手術名	症例数	No	手術名	症例数
1	清創縫合術	14	7	腹部外科手術	4	13	骨牽引術	1
2	筋弛緩及び筋腱延長術	13	8	鋼板摘出術	4	14	椎間盤切除術	1
3	椎弓板減圧術	7	9	ギプス固定術	2	15	血管腫切除術	1
4	ハリントン固定術	6	10	膀胱、尿道手術	2	16	脊髄視床路切断術	1
5	関節融合術	6	11	動脈吻合術	2	17	その他	2
6	内固定術	5	12	大腿骨頭置換術	2			

9 P T 郡川地区統計 (1988年3月~10月)

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
入院 延べ人数 (人)	133	410	544	581	605	826	942	950	4,991
脊損	106	221	345	304	225	338	371	307	2,217
片マヒ	27	189	196	266	348	465	367	436	2,294
脳性マヒ			3		20	19	200	185	427
切斷									
ポリオ後遺症									
その他				11	12	4	4	22	58
外来 延べ人数 (人)	0	0	0	0	0	0	0	11	11
脊損									
片マヒ									
脳性マヒ								11	11
切斷									
ポリオ後遺症									
その他									
計 延べ総数 (人)	133	410	544	581	605	826	942	961	5,002

100 T 群馬県統計書十 (1989年3月~10月)

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
入院 延べ人数 (人)	94	186	273	224	388	481	868	555	3,064
内									
常損	32	80	87	59	18	32	360	48	716
片マヒ	62	106	186	158	298	361	330	288	1,789
脳性マヒ				2	65	59	140	168	434
切断									
ポリオ後遺症									
その他				5	7	29	33	51	125
外来 延べ人数 (人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
削減延べ総数 (人)	94	186	273	224	388	481	868	555	3,064

11 S T 群馬県統計書十 (1989年3月~10月)

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
入院 延べ人数 (人)	9	54	31	14	65	71	96	98	438
内									
失語症	9	54	31	14	60	66	89	95	418
その他					5	5	7	3	20
外来 延べ人数 (人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
削減延べ総数 (人)	9	54	31	14	65	71	96	98	438

1.2 職員職種構成 (1989年9月現在)

医師	176人	看護婦	177人	医療技術員	120人	薬剤師	20人	管理・庶務*	25人
主任医師	8	副主任看護師	1	主管技師	7	副主任薬剤師	2	行政管理	8
副主任医師	25	主管看護師	7	技師	28	主管薬剤師	3	庶務	17
主治医師	63	看護師	19	技士	85	薬剤師	7		
レジデント医師	80	看護士	150			薬剤士	8		

*一部の医事以外の総務・庶務関連部門は病院職員に含んでいない

1.3 職員年齢構成 (1989年9月現在)

年齢	20~24	25~29	30代	40代	50代	60代	合計	
職員数	222 (42.85%)	91 (17.57%)	65 (12.55%)	71 (13.71%)	54 (10.42%)	15 (2.80%)	518 (100.00%)	
内訳	男性	47 (9.07%)	34 (6.58%)	27 (5.21%)	24 (4.63%)	26 (5.02%)	9 (1.74%)	167 (32.23%)
	女性	175 (33.78%)	57 (11.01%)	38 (7.34%)	47 (8.08%)	28 (5.40%)	6 (1.16%)	351 (67.77%)

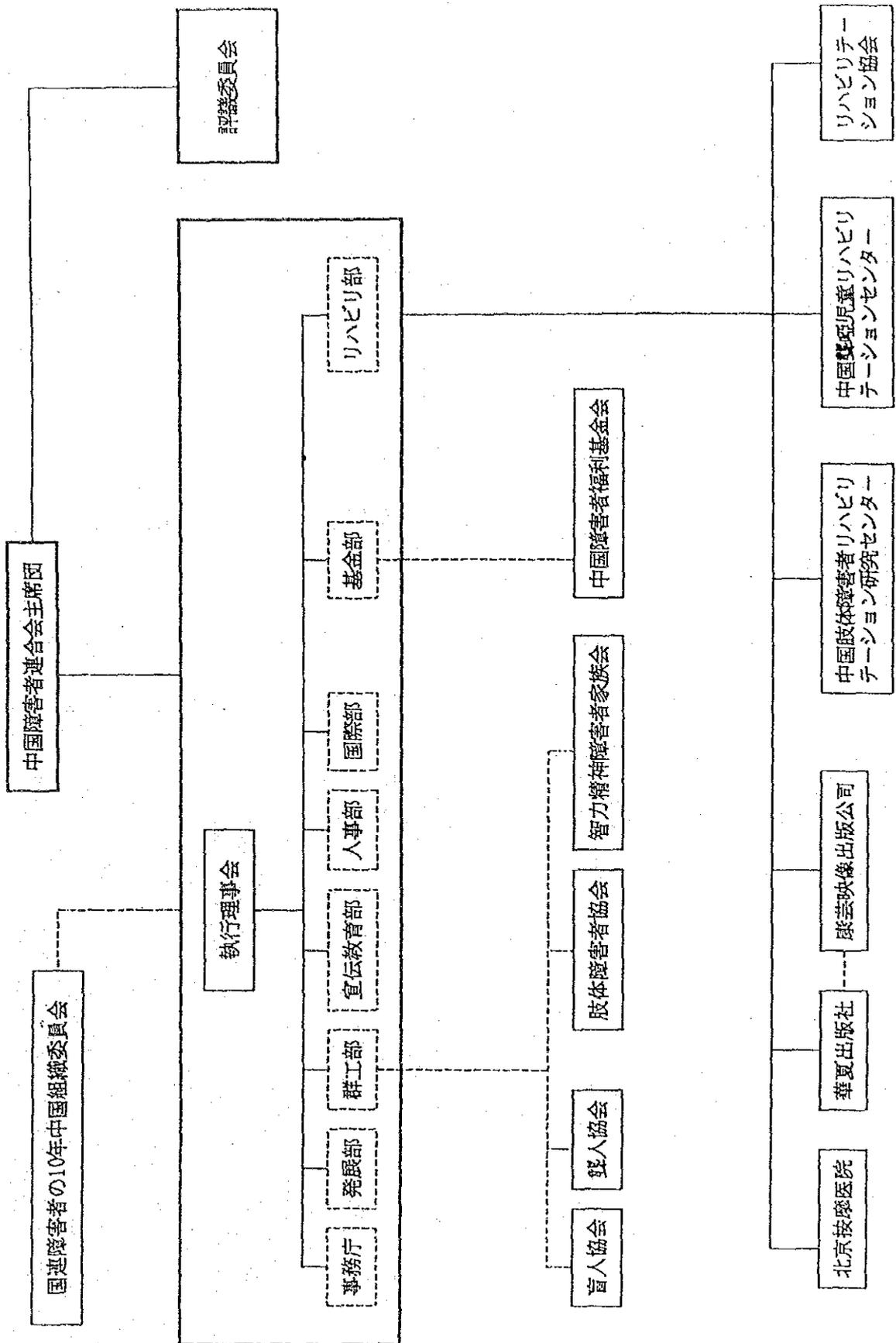
部門別ベット配置状況
(合計：216床)

1990年11月現在

部門名	ベット数	場所
① 慢性期脊髄損傷リハビリ	40床	南病棟（A棟）1階
② 整形外科、一般外科、泌尿器科	40床	〃 2階
③ 神経内科	32床	〃 3階
④ 総合（外国人・高級幹部用）	20床	〃 4階
⑤ 脳性麻痺、小児整形外科	28床	中病棟（C棟）1階
⑥ 急性期脊髄損傷リハビリ	28床	〃 2階
⑦ 一般内科	24床	〃 3階
⑧ ICU（回復室）	4床	〃 3階
⑨ 手術室、麻酔	—	〃 4階

中国障害者連合会機構図

1990年11月現在



中国障害者連合会主要人員配置

中国障害者連合会

主席团

主席 游稼方 (肢体障害)
副主席 黄乃 (盲)、李石涵 (聾)、謝晋 (知力障害者家族)、劉小成
江亦曼

執行理事会

理事長 游稼方
副理事長 劉小成、周敬東、林太、劉京
理事 恩元、勝偉民、富志偉

評議委員会

主任 吳慶彬
副主任 錢信忠、甘柏林、戴目、謝良

中国障害者福祉基金会

理事長 游稼方

中国盲人協會

主席 甘柏林
副主席 勝偉民

中国聾人協會

主席 戴目
副主席 富志偉

中国肢体障害者協會

主席 謝良
副主席 郭建模

JICA